

各地で戦争と平和を考える

終戦記念日前に

資料、写真展や講演企画

8月15日の終戦記念日を前に、各地で戦争と平和について考える企画展が開かれる。熊本市中央区の熊本市立図書館では、平和企画展「絵本・戦時資料から見た熊本空襲」が開催中だ。市民が平



熊本市立図書館で開催中の平和企画展で戦時中の絵本を手にとる来場者

和の尊さを学ぶ機会につなげようと、戦時中の絵本や乳幼児の防空ずきんなど約70点を展示している。入場無料。8月26日まで。

熊本大空襲(1945年7、8月)時に投下されたと見られる不発弾が昨年7月に熊本市内で見つかったことを受け、市教育委員会と戦時中の資料を集めている「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」が戦争の悲惨さと平和の大切さを感じる場を作ろうと初めて企画した。

熊本市だけで617人が犠牲になった熊本大空襲に焦点を当て、戦時下の市民生活を物語る幼児用の防空ずきんや空襲警報時の対処法を記した心得紙など

を展示。宇城市の元高校教諭、上村真理子さん(64)が収集した「テキキサブコイ(敵機さあ来い)」など戦時中の絵本も並び、子どもたちの生活も戦時色に染まっていた状況が伝わってくる。8月11日には「空襲を語る絵本たち」と題した上村さんの講演会も予定している。

宮崎市のイオンモール宮崎では8月25、9日に「宮崎特攻基地資料展・宮崎市遺族連合会遺影展」が開かれる。特攻隊基地だった旧海軍組飛行場(現宮崎

空港)から飛び立った特攻隊員約60人分の遺影や実機プロペラなど200点以上を展示。同4日午後2時から戦争遺族が宮崎空襲の体験などを話す。

鹿児島市の市立図書館では今月25日～8月20日、「鹿児島市の戦災と復興資料・写真展」が開かれる。空襲で焼け野原になった街地の写真やパネル約30点の他、市民が寄贈した千人針など6点を展示する予定だ。

【塩月由香、城島真人】